

令和5年2月22日

太田市議会議長 岩崎 喜久雄 様

議会改革推進特別委員会  
委員長 矢部 伸幸

議会改革推進特別委員会視察報告書

- 1 期 日 令和4年11月1日（火）から  
11月2日（水）までの2日間
- 2 視 察 地 愛知県岩倉市、滋賀県彦根市
- 3 視察事項 (1) 愛知県岩倉市  
議会改革の取り組みについて  
(2) 滋賀県彦根市  
議会改革・開放の取り組みについて
- 4 派遣委員 11名  
矢部 伸幸委員長 長ただすけ副委員長  
前田 純也委員 水野 正己委員 高木きよし委員  
今井 俊哉委員 高田 靖委員 木村 浩明委員  
山田 隆史委員 町田 正行委員 白石さと子委員
- 5 随 行 者 議会総務課 主任 飯田 侑也、主任 今井 章裕
- 6 視察概要 別添のとおり

## (1) 岩倉市議会 視察概要

### 岩倉市の概要 (令和4年4月1日現在)

- ・面積 10.47 k m<sup>2</sup> ・人口 47,574 人 ・世帯数 21,860 世帯
- ・市制施行 昭和46年12月1日
- ・一般会計予算額 4年度：16,460,000 千円 3年度：15,690,000 千円
- ・議員定数 15人
- ・政務調査費（議員一人当たりの年額） 180,000 円

### 視察事項

「議会改革の取り組みについて」

#### ・目的

岩倉市議会は、早稲田大学マニフェスト研究所が主催する議会改革度調査2021において、住民参加部門で全国7位、総合ランキングで全国9位に位置しており、議会改革の先進地として注目されている議会である。市議会ホームページにおいても、「情報公開No.1の市議会を目指します！！」と自ら宣言し、住民参加や情報公開の強化に向けた取り組みを推進している。

また、市民との意見交換会や市議会サポーター制度など、市議会活動に市民を巻き込んでいく事業を積極的に実施していることから、今後の本市議会における住民参加の強化に向けた取り組みの参考とするため、視察を実施する。

#### ・所感

岩倉市議会では、「情報公開No.1の市議会を目指します！！」というスローガンを掲げており、その背景には、決して後退することがないよう議会改革を進めていくという市議会としての覚悟と、議員1人1人の熱意があることを、今回の視察を通して感じる事ができた。

情報公開に向けた取り組みとして、岩倉市議会では「公開できるものは何でも公開する」という姿勢を貫いており、原則として全ての会議を公開し、傍聴者にも議員と同様の資料が配付され、会議中の写真や動画の撮影、録音も可としている。このことにより、市民は議案の審議経過を詳細に知ることができ、議員は常に緊張感をもって会議に臨むことができている。諸会議における写真撮影の解禁など、本市でも導入できる施策はないか、検討を進めていきたい。

また、政策提言にも積極的に取り組んでおり、提言書の提出までには、議員間の合意形成に向けて、幾度とない会議や調整が行われるとのことであった。

1つの目的に向かって、議会全体が一丸となり取り組む姿勢は素晴らしいものであった。

住民参加に向けた先進的な取り組みとしては、議会サポーター制度についてご紹介いただいた。無作為に抽出した市民500人に対して通知を発送し、議会サポーターへの応募を依頼するという方法により、様々な年代からまんべんなく議会サポーターが選出されていた。また、幅広い年代の方に議会サポーターとして活動していただけるように、実際に傍聴に来ることができない場合には、録画配信による傍聴も可とすることで、気軽に参加できるよう工夫されていた。こうした取り組みによって、市民にとって議会がより身近なものとなり、民主的な運営が促進されていくと考える。本市においても、いかにして市議会活動に市民を巻き込んでいくのかという点が、今後の議会改革のポイントになると考える。

市民に開かれた議会を目指すために、様々な施策を打ち出し、繰り返しチャレンジする姿勢こそが、岩倉市議会の議会改革の原動力となっており、本市議会においても見習うべき点は非常に多く、大変有意義な視察となった。

## (2) 彦根市議会 視察概要

### 彦根市の概要 (令和4年11月末現在)

- ・面積 196.87 k m<sup>2</sup> ・人口 111,694 人 ・世帯数 50,036 世帯
- ・市制施行 昭和12年2月11日
- ・一般会計予算額 4年度：49,769,000 千円 3年度：46,134,000 千円
- ・議員定数 24人
- ・政務調査費（議員一人当たりの年額） 240,000 円

### 視察事項

#### 「議会改革・開放の取り組みについて」

##### ・目的

彦根市議会では、議会改革の取り組みとして、市内にある国立大学法人滋賀大学と連携・協力に関する協定を締結し、事業を展開している。大学生にとっては地域課題について具体的に学ぶ機会となり、シティズンシップ教育としても大変有効であると考えられる。また、議員にとっては議会活動に若者の意見を取り入れることができ、住民参加の促進にもつながる取り組みとなっている。太田市内にも大学等の教育機関があることから、大学との連携・協力の取り組

みについて学び、今後の議会改革の参考としたい。

また、同市議会は、公聴・広報の取り組みにも力を入れており、様々な形で市民との意見交換を行っていることから、議会報告会・意見交換会の開催方法を模索している本市議会において参考とするために、視察を実施する。

#### ・所感

彦根市議会では、議会改革に関連した委員会として、議場開放促進委員会、広報委員会、公聴委員会の3つの委員会を設置し、全ての委員がいずれかの委員会に所属し、議会改革に向けた取り組みを推進する体制となっている。このことから、彦根市議会の議会改革に対する本気度を感じることができた。

中でも、議会報告会には大変力を入れており、より多くの市民に参加していただけるよう、試行錯誤をされていた。ワークショップ形式やワールドカフェ形式での開催、大型商業施設でのオープン参加型での開催など、テーマやターゲットに合わせた様々な方法で実施しており、コロナ禍においては、オンラインでの議会報告会にも迅速に対応するなど、素晴らしい企画力と行動力であった。

また、滋賀大学との連携により、様々な事業を展開されていた。議会報告会では、学生がファシリテーターを務めており、学生にとっては地方自治への理解が深まるとともに、ファシリテーターとして会議運営についても学ぶことができ、大変良い機会となっていた。今後の展望としては、滋賀大学の各学部が持つスキルや専門性を政策提言に活かす取り組みや、ビッグデータの利活用など、様々な事業を計画しており、さらなる発展が期待されるものである。地域の大学との連携は、地方創生を担う人材の育成にもつながることから、本市においても、市内の大学や専門学校など、教育機関との連携の取り組みを模索していきたい。

議場開放の取り組みとしては、子ども議会や議場コンサートを定期的に行われていた。今年度は、ご当地キャラクターが集まる「キャラクター会議」を議場で開催するなど、形式にとらわれない柔軟な発想でイベントを打ち出すことで、市民が親しみやすい議会となっている。

彦根市議会の議会改革の特徴は、その迅速性にあると考える。議会改革に関わる上述の3委員会は、それぞれが決定権をもっており、委員会で決定された事項は、即座に実行に移されている。また、事業を実施した際には、効果や課題を検証し、迅速に改善につなげることができており、こういった体制によって、活発な議会改革の風土が出来上がっていると感じた。このような迅速な決定・改善のプロセスは、本市においても見習うべきものであると考える。